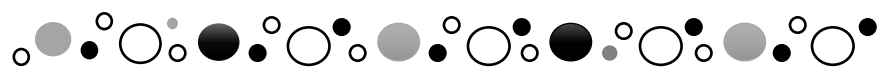




2022・2023 年度

家庭教育支援事業の記録



杉並区教育委員会事務局

学校支援課 家庭・地域教育担当

2022（令和4）年度の家庭教育支援事業

開催回/団体名	テーマ	講師	開催日	人数
家庭教育講座（教育委員会主催）				
第1回	あるべき子ども像に縛られていませんか？ ～子どもの持つ力を引き出すには～	立正大学 社会福祉学部子ども教育福祉学科 教授 大竹 智	12月1日	18
第2回	遊びの中で子どもは育つ ～幼児期だからこそ育みたい力～	聖心女子大学 現代教養学部教育学科 教授 河邊 貴子	2月13日	30
家庭教育講座（地域団体主催・教育委員会共催）				
ミモザの花～子どもの不登校を考える会	不登校に関する情報交換会（第1回） 子どもが「学校へ行きたくない」と言ったら	河北総合病院小児科 医師 鹿島 京子 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲 ほか	6月18日	65
	不登校に関する情報交換会（第2回） 不登校の子ども的高校進学	都立荻窪高校 瓦田 尚 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲 ほか	11月12日	69
こどもと笑顔 with	杉並つながるミーティング ～これからの子育て子育てを応援する 地域づくりを語ろう～	合同会社 Active Learners 共同代表 山ノ内 凜太郎	7月31日	48
			11月3日	49
富士見丘中学校 区地域教育連絡 協議会	特別支援教育って何？ ～正しく理解して、知ろう！みんなでさ さえ合おう～	むさしの発達支援センター 所長 森山 徹	12月9日	49
NPO 法人 杉並 冒険あそびの会	知っとく！ 子どもに寄り添う「肝心かなめ」 ～冒険遊び場から学ぶ～	日本冒険遊び場づくり協会 代表 関戸 博樹	1月29日	19
杉並区立松溪中 学校 PTA	親も知ろう 子どもの性のこと	NPO 法人ピッコラーレ 副代表 土屋 麻由美	2月4日	25
思春期・発達障 がいの会 ajuga	思春期の子どもの接し方	思春期・発達障がいの会 ajuga 会長 飯塚 ひろみ	2月11日	8
家庭教育フォーラム				
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を見送りました。				

あるべき子ども像に縛られていませんか？

～子どもの持つ力を引き出すには～



日時：令和4年12月1日（木）10:00～11:30

会場：区役所第4会議室

参加人数：18名

講師：立正大学社会福祉学部子ども教育福祉学科 教授 大竹 智

大學で教鞭をとりながら、杉並区青少年問題協議会委員、杉並区いじめ問題対策委員会会長を務め、杉並区教育振興基本計画審議会委員として「杉並教育ビジョン2022」の策定にも携わる。また、自治体の児童福祉に関わる会議の委員を務めるかわら、子どもへの虐待防止のためのNPO法人を立ち上げ、子どものサポーター事業等にも取り組む。



●内容●

「杉並区教育ビジョン2022」に掲げた5つの視点のうち、「子どもの思いや権利を尊重する」を家庭の中でどう取り入れていくといいのか、その理解と認識を深めました。

大人（親）は自らが考える子どものあるべき姿や目指す子ども像にとらわれがちですが、子どもも「一人の人間、人格の主体として尊重されること、生活と人生の主人公であり、幼いながらも社会の重要な構成員である」と捉える正しい子ども観を持ち、それを基にした対応が必要です。

子どもを取りまく社会や家庭のあり様の変化が、子どもの身体、心の育ちにも影響しています。子どもの育ちに大切なことは何かを考え、子どもの力を信じて寄り添うことが子どもの力を引き出すことに繋がることを学びました。

●参加者の声●（参考になったところ）

- ・子どもたちのおかれている状況がかなり深刻であることが心に響くお話しでした。今は自分の子どものことで手も頭もいっぱいですが、まわりにも目と心を配ることができるようにになりたいと思いました。
- ・「子どもにレールの上を歩かせようとするのではなく、力を信じて夢や希望と一緒に探す」という親の役割について深く共感しました。
- ・どうしてもレールを敷きがちになりますが、子どもを信じて待つことを心がけたいと思いました。小学生になり、自分の主張をはげしくするようになってきた我が子とどう向き合っていくのかをじっくりゆっくり考えてみたいと思っています。
- ・本質的に「子どもの気持ち、声を聞く」とは、どういうことなのか。大人がきちんと理解し、子どもと接していくことがいかに大切か教えていただきました。

「遊びの中で子どもは育つ」 ～幼児期だからこそ育みたい力～



日時：令和5年2月13日（月）10:00～11:30

会場：区役所第4会議室

参加人数：30名

講師：聖心女子大学現代教養学部教育学科 教授 河邊 貴子

専門は幼児教育学。公立幼稚園教諭、東京都教育委員会指導主事を経て、大学での教員養成の道へ。学生指導、研究、保育現場の先生方との研修研究が大切な三本柱で、どれが欠けても思考が上手くまわらない。子どもの遊ぶ場に魅了され、遊びの充実のために保育者は何をすべきかを考え続け、答えを模索中。杉並区教育振興基本計画審議会委員として「杉並区教育ビジョン2022」の策定にも携わる。

●内容●

「杉並区教育ビジョン2022」は、「誰もが学びを通して自分らしく豊かに生きられる」よう、杉並の教育の基本的な考え方を示しています。子どもたちがそのような学びを得て育つには、どう見守り育むべきかをお話いただきました。

子どもが興味や関心を強く感じながら遊ぶとき、生きていく上で必要な資質能力やスキル、価値を獲得していきます。これから先の人生のために、主体的に行動し他者と協働する力を育むことが大切なこと、幼児期にはそれが遊びの中で育まれていくこと、遊びは子どもの重要な学習だと理解することで、親は子どもの遊びをおおらかに見守ることができると学びました。

保育園や家庭での子どもの遊びを紹介する動画で、実際に遊びが学びとなっている様子も紹介されました。

●参加者の声●（参考になったところ）

- ・子の遊びに対する親の姿勢（オウム返しで良い。手出しは少なめ）を「〇〇すべき」でなく「普通で良い」と言っていただけで、助かった。
- ・5歳の娘に文字や数など勉強に重点を置いて家庭教育している自分がいて少し悩んでいたもので、今回の講座を聞いてスッキリしました。もっと娘と遊ぶことに重点をおきたいと思いました。
- ・子どもの周りで習い事を始める友だちが増えてきて、家庭での遊びだけでは経験に差ができてしまうのではと不安でしたが、少し安心しました。今後も家庭での関りや遊びを大切にしたいです。
- ・子どもと接する時どんな風に過ごしたらいいのかがわかり、あせらず今の子どもとの時間を楽しもうという前向きな気持ちになりました。

不登校に関する情報交換会 主催団体名：ミモザの花～子どもの不登校を考える会

	第1回	第2回
テーマ	子どもが「学校へ行きたくない」と言ったら	不登校の子ども的高校進学
開催日	令和4年6月18日	令和4年11月12日
会場	阿佐谷地域区民センター	
参加人数	65名	69名
講師	河北総合病院小児科 医師 鹿島 京子 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲 ほか	都立荻窪高等学校 瓦田 尚 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲 ほか

不登校になったらどうしたらいいか、不登校児の卒業・進学のこと、学校との付き合い方など多様な視点からの講演のほか、不登校経験者と参加者の懇談を実施しました。

●参加者の声●

- ・子どもの不安定さに引きずられないようにしようと思った。
- ・経験者の話がとても参考になった。
- ・苦しい、暗いとなりがちなテーマを「こういう方法がある」と明るく話せる雰囲気がとてもよかった。
- ・こういう視点があるのかと、目からうろこが落ちるような思いだった。



杉並つながるミーティング ～これからの子育て子育てを応援する地域づくりを語ろう～ 主催団体名：こどもと笑顔 with

	第1回	第2回
テーマ	杉並つながるミーティング ～これからの子育て子育てを応援する地域づくりを語ろう～	
開催日	令和4年7月31日	令和4年11月3日
会場	西荻地域区民センター	阿佐谷地域区民センター
参加人数	48名	49名
講師	ファシリテーター 合同会社 Active Learners 共同代表 山ノ内 凜太郎	

参加者全員で、杉並区内の子育て子育て支援の現状、課題、夢を語り、グループワークを通して、各自が夢へのアクションプランを持ち帰る機会となりました。

●参加者の声●

- ・子どもと親が笑って暮らせるような地域づくり、子どもの居場所をつくりたい。
- ・杉並区の素敵な皆様と繋がれたこと、心から嬉しく思います。これから皆様とご一緒に、子ども達の未来のために、何かできることがあるかを考えるとワクワクです。
- ・大人が元気にならないと、子どもが笑顔にならないので、大人が安心して好きなことで繋がっていける居場所を色々な方々と繋がりを作っていきたいです。

特別支援教育って何？

～正しく理解して、知ろう！みんなでささえ合おう～

主催団体名：富士見丘中学校区地域教育連絡協議会

テーマ	特別支援教育って何？～正しく理解して、知ろう！みんなでささえ合おう～
開催日	令和4年12月9日
会場	杉並区立富士見丘中学校
参加人数	49名
講師	むさしの発達支援センター 所長 森山 徹

各校に特別支援教室が設置され、インクルーシブ教育が進められる中、特別支援教育についての時代背景、現状、教育ビジョン2022との関わり等を、学校の中だけでなく、地域社会全体が正しく理解し、支え合うことの大切さを学びました。

●参加者の声●

- ・特別支援教育を必要とする事例をもっと詳しく知りたかった。
- ・診断がつかない子どもは、特別支援教室に入ることはできず、学校以外に通う場を求めると経済的な負担が大きい。そのような子どもの受け皿が必要と感じる。
- ・学校の設備や行事も、生徒によっては障壁となり得る。誰かにとって困難な状況は我慢やあきらめを強めるのではなく、変えていく姿勢が大事だと思った。

知っとく！子どもに寄り添う「肝心かなめ」

～冒険遊び場から学ぶ～

主催団体名：特定非営利活動法人 杉並冒険あそびの会

テーマ	知っとく！子どもに寄り添う「肝心かなめ」～冒険遊び場から学ぶ～
開催日	令和5年1月29日
会場	阿佐谷地域区民センター
参加人数	19名
講師	日本冒険遊び場づくり協会 代表 関戸 博樹

保護者や子どもの支援者に子どもに関わる当事者として子どもへの理解や、子どもに寄り添うことについて、講師が作成した動画の視聴と会場でのワークショップを行い、実践的な学びが深まりました。

●参加者の声●

- ・講座のおかげで、子育てでの不安が減ったことを強く感じました。また、世代を超えて地域で子育てをしていくことの大切さも学びました。子どもも大人も関係なく、いろいろな人同士が交流する場が増えてほしいと感じます。
- ・大人が自分を大切にできて初めて、他者にも幸せになってもらいたいと手伝えるようになると思うので、仕事や家庭でも今回感じたことを生かしていきます。

親も知ろう 子どもの性のこと 主催団体名：杉並区立松溪中学校 PTA

テーマ	親も知ろう 子どもの性のこと
開催日	令和5年2月4日
会場	杉並区立松溪中学校
参加人数	25名
講師	NPO 法人ピッコラーレ 副代表 土屋 麻由美

インターネットやスマートフォンが普及し、親世代が子どもだった頃と大きく変わった今の子どもたちを取り巻く性に関して、起きている様々な問題や事例、その中で子どもたちが安心・安全に生きていくための具体的な方法や知識を学びました。

●参加者の声●

- ・何かが起きてしまったときに、否定するのではなく、まずは聞く・耳を傾けることが重要だと実感しました。
- ・大切な話と分かっていても、聞く機会がなかったので、とても勉強になりました。
- ・親子で話すと考えると、タイミングや何をどう話せばいいかなど難しいので、今回の話を親子で聞きたいです。



思春期の子どもの接し方 主催団体名：思春期・発達障がいの会 ajuga

テーマ	思春期の子どもの接し方
開催日	令和5年2月11日
会場	高井戸地域区民センター
参加人数	8名
講師	思春期・発達障がいの会 ajuga 会長 飯塚 ひろみ

思春期の子ども達への様々なコミュニケーション方法について、デモンストレーションを行いながらの講演から学びました。コロナ禍で増えたスマホやネットの時間との向き合い方や、子どもからの暴言暴力への対応についても聞くことができました。

●参加者の声●

- ・思春期の子どもとのコミュニケーションは例えるならば親がテニスの壁打ちの壁役でラリーをしない。それが子どもの話を聴き切ることになるというお話にとっても共感できました。
- ・今、ここにある気持ちに共感すること、また、子どもの話を聴き切ることが大切という話がよかったです。
- ・子どもの話を聴き切りたいと思います。

2023（令和 5）年度の家庭教育支援事業

開催回/団体名	テーマ	講師	開催日	人数
家庭教育講座（教育委員会主催）				
第 1 回	いま、こどもにとって必要な「居場所」って	川崎市子ども夢パーク 前所長 西野 博之	10 月 2 日	37
第 2 回	はじめての小学校！	社会教育士 区立杉並第十小学校前校長 山口 京子	11 月 10 日	36
家庭教育講座（地域団体主催・教育委員会共催）				
ミモザの花～子どもの不登校を考える会	不登校に関する情報交換会（第 1 回） 子どもが「学校へ行きたくない」と言ったら	訪問看護ステーション ナンナル 所長 校條 文 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲 ほか	6 月 17 日	57
	不登校に関する情報交換会（第 2 回） 不登校の子どもの高校進学	リュミエール学習塾 坪田 美奈子 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲 ほか	10 月 7 日	52
ゴードン・メソッド「親業」@すぎなみ	思春期の子どもの心を開くコミュニケーション講座	親業インストラクター 加藤 規子	11 月 12 日	31
			12 月 10 日	25
NPO 法人 杉並冒険あそびの会	知って得する！子どもに寄り添う「肝心かなめ」	日本冒険遊び場づくり協会 代表 関戸 博樹	1 月 13 日	42
杉並区立西荻北子供園 PTA	子どものよさを見つけるためには	東京家政大学 准教授 榎本 眞実	1 月 19 日	30
一般社団法人ファミリード	心を安定させる食事～大人のイライラ、子どものかんしゃくは食べ方で変わる！	分子栄養トレーナー 塚野 由美子	1 月 23 日	36
杉並区立天沼小学校 PTA	大人が輝けば子どもが輝く 子どもが輝けば未来が輝く	株式会社てっぺん 取締役会長 大嶋 啓介	3 月 10 日	119
杉並区立中瀬中学校 PTA	子どもの幸せってなに？	関西学院大学人間福祉学部 教授 桜井 智恵子	3 月 26 日	35
家庭教育フォーラム				
参加対象となる、家庭教育講座の主催団体が少なかったため、開催を見送りました。				

いま、子どもにとって必要な「居場所」って



日時：令和 5 年 10 月 2 日（木）14:30～16:30

会場：区役所第 4 会議室

参加人数：37 名

講師：川崎市子ども夢パーク前所長 西野 博之

認定 NPO 法人フリースペースたまりば前理事長。1986 年より不登校児童・生徒や高校中退した若者の居場所づくりにかかわる。不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、さまざまな障がいのあるひとたちとともに地域で育ちあう場をつくり続けている。神奈川大学非常勤講師。精神保健福祉士。

●内容●

子どもたちの育ちに欠かせない「居場所」の重要性についての講演と、身近にそうした場を広げようとする保護者や地域住民が持つ問題意識を共有するために、参加者がグループになって懇談を行いました。

講演では、不登校やいじめが増えている背景として、大人（親）が先回りをして失敗を防止することや、遅れがなく正しさを求める教育をすることで、子どもたちの自己肯定感が低くなっているという現状が話されました。

子どもは生まれながら一人の人間であり権利の主体である、という大人の認識と共に、子どもがありのままに自由に遊び活動する、また安心して人間関係を作れる「居場所」が必要です。そして、大人の役割は、「大人が何もしない」ことを保障し、子どもが居たいように居られる場にすること。そして、大人自身が幸せであること、というお話が心に残る講演でした。

●参加者の声●（参考になったところ）

- ・大人が幸せじゃないと、子どもは幸せになれない、子どもの声を聴く。何もしなくていい、居たいように居られる場、子どもを 1 人の市民とみる視点などが印象に残りました。
- ・夢パークでの取組が特別なことではなく、全ては大人が本気で考えるかどうかで決まることなのだと感じました。
- ・子どもの教育の延長に我々の所属する社会があるので、その現状を知ることから始める重要性を感じました。
- ・居場所を開くなら何かを提供しなくてはと思っていましたが、「居たいように居られる場所」、「大人が何もしないことの保障」という考え方が大変参考になりました。
- ・大人が幸せでいなければ、子どもも幸せにはなれない。大人が幸せでいてほしい。子どもは、そういう中で安心して生きることができるという言葉がとても胸に刺さりました。何もしなくていい場所、大切だと思います。
- ・今子どもたちが楽しい幸せ！！と思えないで、将来幸せになれるはずがない、今生きてることを楽しいと思えるように、ありのままの姿を受け止めることをしていきたいです。



はじめての小学校！

日時：令和 5 年 11 月 10 日（金）10:00～12:00	
会場：区役所第 4 会議室	参加人数：36 名
講師：社会教育士・区立杉並第十小学校前校長 山口 京子	
【サポートメンバー/せんぱい保護者】	
鈴木 里栄、峯 礼子、長谷川 亜希子、奥村 真由美、見澤 海	



●内容●

親子がともに小学校入学を楽しみにしながら迎えられるように「就学前後の子どもへのかかわり方のヒント」と、参加した保護者同士が、先輩保護者のアドバイスを受けながら「自分の気になることを解決するヒント」を見つけることをゴールに、ワークショップ形式で講座が進みました。

事前に、入学を前に「子どもが気にしていること」、「保護者が気になること」についてアンケートをとりました。アンケートの集計結果を共有するとともに、「子どものこと」、「自分のこと」それぞれ話したい・聴きたいテーマごとにグループになって懇談。「学童クラブ（ってどんなところ？）」、「友だちとの関係」、「登下校時の安全」、「PTA や保護者同士の関わり」などのテーマで、気になる点を話し合ったり、先輩保護者のアドバイスを聞いたりしました。

時に他の人の力を頼りながら「気になること」について考え、アクションを起こすことが解決につながることを体験し、小学校入学を前向きに考える助けとなる講座でした。

●参加者の声●

- ・はじめての小学校入学を前に、心の準備ができました。『知識を詰め込むというよりヒントを得る場』、先生がおっしゃったように、一方的に聞くのではなく自分の状況を話し見つめる機会、そして自分の不安の正体を知ることができて、このような機会がなければ気付くことができませんでした。
- ・講師の方や先輩ママさんたちのお話がとても上手で、「あまり心配しすぎなくても子どもは自分の力で育つ力を持っている」「親も自分の人生を生きていい」と言っていただけて、心に残るお話を聞くことができました。
- ・みんなでディスカッションする時間もあり、1人で抱えている部分もあったので、不安が和らぎました。
- ・ただ主催者側の話を聞くだけではなく、私たちが自分の考えや質問を紙に書いて、他の保護者の人たちに伝える作業をすることで、自分自身が漠然と感じていた不安がクリアになった。また、初めて顔を合わせる人たちに自己開示しながら関わるうち、これはもしかしたら初めて集団生活に入る子どもたちの不安や緊張なのかなと思った。自己主張が苦手で、人見知りの子どもの心配ばかりしていたが、今回の講座に参加して、自分自身がとても緊張していたのに気づき、子どもが不安になることを当たり前のよう受け止めてあげようと思いました。

不登校に関する情報交換会 主催団体名：ミモザの花～子どもの不登校を考える会

	第1回	第2回
テーマ	子どもが「学校へ行きたくない」と言ったら	不登校の子どもの高校進学
開催日	令和5年6月17日	令和5年10月7日
会場	ウェルファーム杉並	阿佐谷地域区民センター
参加人数	57名	52名
講師	訪問看護ステーション ナンナル 所長 校條 文 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲 ほか	リュミエール学習塾 坪田 美奈子 フリースクール「フェルマータ」 代表 大橋 勲 ほか

思春期の子どもの精神状態、不登校になったらどうしたらいいか、不登校児の卒業・進学のこと、学校との付き合い方など多様な視点からの講演のほか、不登校経験者と参加者の懇談を実施しました。

●参加者の声●

- ・子どもは成長しこの状態がずっと続くわけではないと聞いて安心した。
- ・経験者の話はとても貴重だった。
- ・進学について何からとりかかればよいかわからなかったが、道筋が見えた気がした。
- ・進路にさまざまな選択肢があることがわかり、安心した。

思春期の子どもの心を開くコミュニケーション講座

主催団体名：ゴードン・メソッド「親業」@すぎなみ

	第1回	第2回
テーマ	思春期の子どもの心を開くコミュニケーション講座	
開催日	令和5年11月12日	令和5年12月10日
会場	阿佐谷地域区民センター	
参加人数	31名	25名
講師	親業インストラクター 加藤 規子	

思春期の子どもの不安定な気持ちと、子どものためを思う親の対応にズレが生じて、親子の関係が壊れてしまいがちであることを認識し、場面に応じたコミュニケーションの仕方について学びました。

●参加者の声●

- ・『能動的な聞き方』のロールプレイを通して、気持ちを受け止めてもらえると話をしやすくなるということを実際に感じる事ができ、理解が深まりました。
- ・子どもに対する接し方を考え直すきっかけになりました。周りのほかのお母さん（参加者）にも話を聞いてもらって、気持ちが少し楽になりました。
- ・心の整理の仕方がわかりやすくて、場面を考える良いヒントになりそうです。

知って得する！子どもに寄り添う『肝心かなめ』 主催団体名：特定非営利活動法人 杉並冒険あそびの会

テーマ	知って得する！子どもに寄り添う『肝心かなめ』
開催日	令和6年1月13日
会場	西荻地域区民センター
参加人数	42名
講師	日本冒険遊び場づくり協会 代表 関戸 博樹

保護者や子どもの支援者を対象に、子どもに関わる当事者として子どもへの理解、子どもに寄り添うことについて講義とワークシートでの内省、「遊びとは」「邪魔するワーク」「寄り添いのワーク」をテーマにワークショップを実施しました。

●参加者の声●

- ・ロールプレイは、普段意識していなかったことに気づけて良かったと思います。無意識にやっている大人の経験によるこうした方がよい、ああして欲しいという教育欲が、いかに子どもの遊びの邪魔をしているかを実感ができました。
- ・子どもに寄り添うことについて、あまり意識したことはなかったのですが、見守ることと寄り添うこと、大切にしたいと思いました。

子どものよさを見つけるためには 主催団体名：杉並区立西荻北子供園 PTA

テーマ	子どものよさを見つけるためには
開催日	令和5年1月19日
会場	杉並区立西荻北子供園
参加人数	30名
講師	東京家政大学 准教授 榎本 眞実

子どもの個性・特性に応じた接し方、自己肯定感の育て方を講演から学びました。座学に交えて、講師から保護者への質問やワークなど双方向のコミュニケーションも実施しました。

●参加者の声●

- ・講師の自然体なお話を聞いた後には、「自己肯定感」という言葉にとらわれていた自分に気づきました。大切なのは親としての「形」や「理屈」ではなく心の持ちようでした。
- ・ほめて育てると耳にしたことがありましたが、ほめるという評価を加えるのではなく、事実を反復して認めるという違いに納得しました。

心を安定させる食事

～大人のイライラ、子どものかんしゃくは食べ方で変わる～

主催団体名：一般社団法人ファミリード

テーマ	心を安定させる食事～大人のイライラ、子どものかんしゃくは食べ方で変わる～
開催日	令和6年1月23日
会場	阿佐谷地域区民センター
参加人数	36名
講師	分子栄養トレーナー 塚野 由美子

食との付き合い方を知り、食べるものと食べ方で、心も体もセルフコントロールができることを、グループになっての話し合いや質疑応答を含め、栄養と食事に関して専門性の高い講義を通して学ぶ機会となりました。

●参加者の声●

- ・自分にも子どもにもあてはまる悩みを解決できるような内容が多くとても参考になった。具体的に教えていただいた食べ方のヒントは早速活かしていきたい。
- ・食事によって発達障害やイライラやかんしゃくが改善できるのがどういった仕組みなのかとても分かりやすかった。栄養素だけでなく食べる順番も大切なことだとわかり、今日から実践していきたい。
- ・子どものために参加したつもりだったが、自分自身の健康やメンタルの安定にも大いに役立つ情報をたくさん得られた。



大人が輝けば子どもが輝く 子どもが輝けば未来が輝く

主催団体名：杉並区立天沼小学校 PTA

テーマ	大人が輝けば子どもが輝く 子どもが輝けば未来が輝く
開催日	令和6年3月10日
会場	杉並区立天沼小学校
参加人数	119名
講師	株式会社てっぺん 取締役会長 大嶋 啓介

「可能性のない人はいない」「いくつからでも夢はかなう」などのテーマの講演でした。講演を通じて、大人たちが自分や子どもの可能性を信じ、生きがいを持って生きるきっかけになることを期待して、講座を実施しました。

●参加者の声●

- ・子どもの可能性を信じてあげられていなかったと気づきました。そして、何より自分が自分の可能性を信じていけていませんでした。まずは自分自身を輝かせていきたいです。
- ・子どもの可能性を信じて応援しようと思います。私個人にもこれから叶えたい夢があり、ますます輝けるぞ！と活力をいただきました。
- ・お話を聞いて、ものすごいエネルギーとパッションを感じ、目が覚めた気がします。

子どもの幸せってなに？ 主催団体名：杉並区立中瀬中学校 PTA

テーマ	子どもの幸せってなに？
開催日	令和6年3月26日
会場	杉並区立中瀬中学校
参加人数	35名
講師	関西学院大学人間福祉学部/大学院人間福祉研究科 教授 桜井 智恵子

昨年施行された「こども基本法」を受け、すべてのこどもが幸せに暮らせる社会とはどのような社会か、大人ができることは何かについて、映画『夢みる小学校』と講演を通して考える機会となりました。

●参加者の声●

- ・感覚的に理解できました。今日から少しずつ、できることを思いついたことを行動していこうと思います。
- ・当たり前だと思っていた社会や教育の環境について考えさせられる内容で、とても参考になりました。
- ・大人が幸せか？という問いにガツーンと頭を打たれた気持ち。この日々は本当に幸せなのか？考え感じながら生きていこうと思います。

教育委員会からの家庭教育情報 「すぎふあみ便り」

保護者が家庭や地域でより豊かに子育てをするためのヒントを伝える記事を、教育情報誌「なみすく」に掲載しています。

どうする？どうなる？マスクの着用緩和
～親子で考える今後のマスク生活～

2022 夏号

コロナ禍で習慣化したマスクの着用。長期のマスク生活による影響や熱中症の対策をふまえて、学校生活でのガイドラインが示されましたが、一方で健康上の配慮からマスクを外せない子もいます。そのような中で、子どもが自分で考えたり、多様性を尊重できるように、子どもの意見を聞きながら親子で話し合うことが学びにつながります。

（話：森 孝さん）



「すぎふあみ便り」

ま
る
こ



「子どもの声を聴く」を考える
～「しあわせ」を手がかりに

2023 春号

子どもも大人と対等の、人格を持った人間で、子どもが考える「しあわせ」も尊重する必要があります。大人が先回りして与えた「しあわせ」の枠組みにはめようとするのではなく、子どもの気持ちを聴き、尊重する。親自身も自分の感情を言葉にして、子どもと聴き合うことも一つの「しあわせ」かもしれません。
(話：河邊 貴子さん)

子どもの幸せ・大人ができること
～問題を「解体」するための子どもの権利

2023 冬号

子どもの権利を考えると、子どもが置かれる社会的な状況を分析することが必要です。子どもの話を聞くと、自分を律し、頑張ることを求められ、心が休まらずにいると感じます。知らぬうちに大人が子どもを追い詰めてしまうのは、それほど大人も余裕がないのだと受け止め、そのような状況にさせている社会のあり方に目を向ける－社会的な問題を解体し、人と関わり合う中で未来へ歩みたいと思います。
(話：桜井 智恵子さん)



子どもの「やる気」と得意を
見つけるには？

2022 冬号

子どもが大人の期待に沿って動くのではなく、主体的に行動するためには、親の望みをいったん脇に置いて、子どもの本音や、今の成長に必用なものは何かを立ち止まって考えてみる。そして子どもの育ちを「待つ」こと。また、子どもが得意なことや興味があることに会ったときに親が気づき、共感することが子どもの主体的な育ちの応援につながります。
(話：おおたとしまさ さん)

その家事、誰がする？
～親子で考える「家庭の仕事」の役割分担

2023 夏号

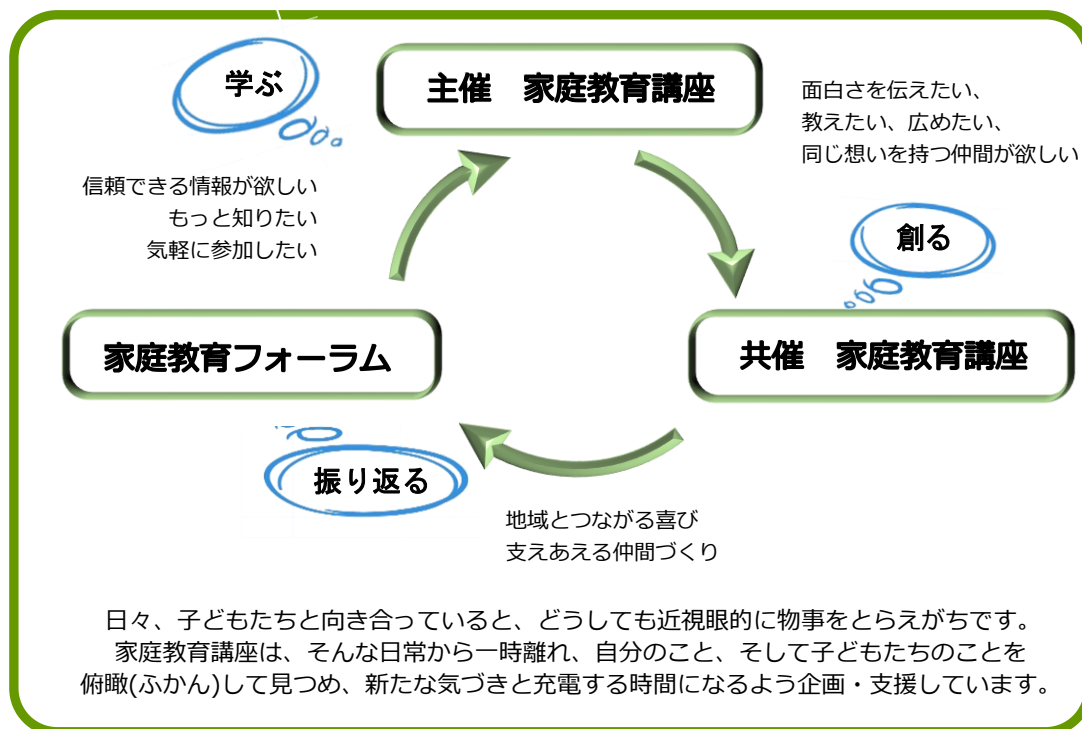
学校の家庭科の授業だけでは、男女ともに日常的な家事は担えるようになりません。家事の力は経験値によるものであるため、学生の段階では男女で同じくらいだという実感があります。大切なのは、性別に関わらず、一人の人間として生活する力を身に着けることなのです。
(話：野原 慎太郎さん)

保護者同士がよりよい関係をつくるには？

2024 春号

子どもをよりよく育てるためには、親が孤軍奮闘するのではなく、子どもが育つ社会環境をみんなでよくするほかないでしょう。PTAは多様な人が任意でありながら「出会わされる」のが重要で、多少の摩擦はありながら協働して乗り越えた先に親自身が育ち、子どもも共に育つ可能性を秘めているのではないのでしょうか。
(話：和田 悠さん)

杉並区教育委員会が提供する家庭教育支援プログラム

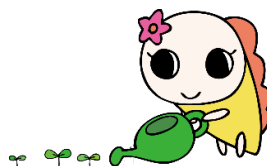


教育委員会では、「子育てについて新たな視点や気づきを得られる場」「仲間と思いを共有し、日々の活力を得られる場」として、**家庭教育講座を主催**しています。

また、子どもにかかわる大人たちが地域の中で自ら学びの場をつくろうと思ったとき、**教育委員会共催として家庭教育講座**を開催できるように支援をしています。

さらに、講座を主催する皆さんの学びと情報交換の場として、**家庭教育フォーラム**を開催してきました。

学びが循環し、地域で支えあえる関係を育めるような仕組み作りを行っています。



2022・2023 年度 家庭教育支援事業の記録

令和 6 年 10 月 発行

編集・発行 杉並区教育委員会事務局 学校支援課

家庭・地域教育担当

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目 15 番 1 号

TEL (03) 3312-2111

登録印刷物番号

06-0028

★杉並区のホームページでご覧になれます。<https://www.city.suginami.tokyo.jp>